愛媛県隣保館職員実務担当者研修会

上記の会が９月５日松山市北条で開かれました。「内宮ふれあいセンターの取組について」と題して館の活動報告があり、館の事業や活動のようすを聴くことができました。

演題「私を育ててくれたもの」と題して、愛媛県人権教育協議会代表幹事米田孝弘さんの講演があり、その話しぶりに熱意が伝わってきました。生の体験談を聞くことは、そのことを直接体験できなくとも、人に感動を与えるものだと感じました。

瀬戸会館だより
平成２５年１０月号
新居浜市瀬戸会館
〒792－0821
新居浜市瀬戸町7－30
E-mail
seto@city.niihama.ehime.jp
TEL０８９７
４１－５８５９
（FAX 兼用）

児童も参加　消火訓練

９月１０日（火）の午後、新居浜南消防署の協力を得て隣接する瀬戸児童館と当館が合同で消防訓練を実施した。火災は当館の調理室から出火したとの想定で、消火器での初期消火、１１９番への通報、館利用者の避難誘導、児童館への火災発生伝達と避難要請などを行った。

この日児童館からは年中（ねんちゅう）の児童「つくしＡ」組の約２０人とそのお母さん、先生方が参加。駐車場で火元から一番遠い場所に集合して、人数の点検、安全確認。そして署員から避難時の心得などの説明を受けた。消火訓練の基本である消火器の扱い方を学ぶとき、児童たちがよくわかるように先ず署員がお手本を示してくれた。それを見て、手順に従って最初の児童が操作をすると、思わず強い勢いで水が飛び出して、周囲の人たちが一斉に体をのけぞり、驚きの声が上がった。

消火器操作訓練のあと、ポンプ車の説明を聞いて、児童たちは運転席にも乗ってみる。また、児童には不釣り合いな、大きくて重たい消防士さんの帽子を被ってみると、お母さんのカメラが前で待っている。みんなで一緒の、記念の写真もバッチリだった。

児童館では敬老のプレゼントづくり

瀬戸児童館では「敬老の日」にちなんで児童たちがプレゼントづくりにいどむ。

９月１１日（水）には０歳児と１～２歳児のベビーサークルがお母さんと一緒に挑戦したが、１４日（土）は誰でも参加できる「あそびのひろば」で試みていた。

図書室にだんだんと集まってきた小学生たちは、教育実習生のお姉さんの指導で作業が進む。

材料は牛乳パックで、半分の長さに切る。それに屋根と底をつけて一件の家を作る。家の壁の部分は用意された色紙で、好きなものを貼りつけている。また何人かは顔が机にひっつくような姿勢で、熱心に絵を描いている。プレゼントする爺ちゃんや婆ちゃんの似顔絵だ。どうやら、それを壁の一つに貼るらしい。

突然、男の子が「できたァー！」と両手を広げて叫ぶ。すぐに実習生の先生に見てもらい、仲間の席に笑顔で戻る。しばらくすると、あちらこちらで完成した家の屋根をニコニコしながら持ち上げている。ちょっとのぞかせてもらった。そっと屋根を持ち上げてみると、空色の紙にピンクのハートが貼りつけてあり、「いつもありがとう」の文字が読めた。

10月公演
回転木馬
おはなし会
10月23日予定
10:00~11:00
瀬戸児童館

太鼓教室生２次募集

和太鼓は打って良し、聴いて良し、スカッとしますよ。いつの日か自分で打ってみたいと思っていませんか？まず、地元の踊り「しっし踊」のリズムから学んでみませんか？小学生から高齢者まで男性女性問わず幅広く募集しています。
お気軽に声をかけてくださいね。
問合せ先、申し込みは
瀬戸会館（４１－５８５９）

10月の主な行事予定

9･30日（水）
　ー　移動図書館
11日（金）
　ー　人権のつどい日
DVD「ほんとの空」の視聴と話合い
月2回（木）ー　絵本・紙芝居　お話し会
泉川小学校放課後児童クラブ

人権あらかると

阪大生の部落訪問記（1）

角岡伸彦（ノンフィクションライター）

部落問題を理解する重要な方法の一つは、部落を訪れ、部落民や関係者と話すことである。いくら口頭や資料で説明しても、限界がある。以下は「授業を受けて何を感じ、考えたか」という試験の答案にあった“部落訪問記”。

授業の中で一番心に残るのが、結婚差別についてでした。自分の家ではどうなのだろうと、本当に気になりました。部落についての話なんて、生まれてこのかた切り出したこともない私が、思い切って母にたずねてみました。「もし私が、部落の人と結婚したいって言い出したら、オッケーしてくれる？」と私が聞くと、母は「好きなら結婚すればええやんか！何言うてんの。」という返事。しかし、私にはこの邪険な（？）返事がとてもうれしかったのです。差別の心を持っていない母がうれしかったのだと思います。

で、その返事の後に「何？好きな人できたんか？できたんやな!!うちに連れて来ィ!!」などと言い出す始末。話題を変えねば、と思い、一番気になっていたことを聞くことにしました。「うちの近くにも部落ってある？」と聞くと「うん、ちょっと遠いけど、あるある！一緒に行こか」と母が言ったが、母を連れていくとうるさそう（疲れそう）なので一人で行くことにしました。

角岡伸彦『はじめての部落問題』（文春新書）より

「人権のつどい日」にひろう

９月１１日は社会福祉士永易英寿さんの講演「防災・災害時の人権に関すること」を聴いた。永易さんは各地で災害ボランティア活動をされていて、最初に阪神淡路大震災から１０年を振り返ったとき作られたビデオを我々に見せてくれた。

次いで資料プリントにある設問に各自が答えを書くように求めた。それは「『避難場所での困りごと』は何か」を考え、自分、障がい者・児、高齢者、乳幼児・妊婦の四つの立場に分けてメモをする。そのあと数人のグループに分かれて話し合い、結果を代表が発表するという段取り。つまり、この過程で災害時の避難場所における人権問題をあぶりだそうとするもの。

各班からは「水とトイレが一番では」「病人が休める場所」「弱者に対する配慮」「障がい者には情報が伝わりにくい」などいろいろ述べられた。しかし、現実は厳しく、配布された資料には困難が生々しく具体的に列挙されていた。まだ、いつまで続くかわからない東日本大震災の避難状況が重くのしかかっている。

敬　老　の　集　い

９月４日（水）に東田保育園で「敬老の集い」があった。朝から無情な大雨だったが、定刻前には爺ちゃん婆ちゃんはもう会場に。

開始のアナウンスのあと園長さんとぞう組さんが代表で入場、「みなさん、どうぞ楽しんで下さい」とご挨拶。側面にはプログラムが掲示され、我が孫の出番がよくわかる。

プログラム一番はひよこ組０（ゼロ）歳児の「さくらんぼ体操」。先生にだっこされて４人が登場し、椅子にチョコンと座る。音楽が流れると小さな手で懸命にマスカラを振る。その可愛いしぐさが大きな拍手を呼ぶ。

次に一歳児が手遊び「むすんでひらいて」に挑戦。各組が登場するたびに年長のぞう組さんの数人が交替で出て、その組のプログラムを紹介する。ぱんだ組が踊り「このゆびとまれ」、きりん組は踊り「みんな集まれ！キョウリュウジャー」と進んでいくが、先生方の運動量はハンパじゃない。椅子や足場の準備や後片付けがスピーディーで、その動きはリズミカルにさえ感じられる。その上、担当の先生は演技中の園児たちが見えるように横から、時には斜め前から大きな動きで見本を示す。

このあと会場は各教室に移る。園児は一人ずつ先生に呼ばれて包みを受けとり、その足で爺ちゃん婆ちゃんにプレゼントを手渡す。プレゼントを押し戴いたお年寄りの目が笑っている。続いて始まったのは肩たたき。流れてきた歌に合わせて、小さい二つの拳が肩の上で踊る。一段落してうれしいお弁当の時間。ちっちゃい机には、給食室で調理した先生手作りのお弁当が並んだ。まだ外は大雨でも、会場は晴れやかな笑顔の花が咲いていた。